海外卒業生・参加者からのメッセージ

海外からのメッセージ

プルタミナ
インドネシア
戦略・ポートフォリオ・事業開発理本部　グループ業績評価マネージャー

トリスニ・ソフィアワティ氏

Ms. Trisni Sophiawati
Manager Group Performance & Evaluation
Directorate of Strategy, Portfolio and Business
Development, PT. Pertamina (Persero), Indonesia

2016年10月に、当時のJCCPプログラムの「石油産業の戦略マネジメント」コースに参加してから6年が経ちました。弊社の上級副社長からこのコースを受けないかと言われた時、私は「戦略的マネジメントは、自分が力をつけたいと思っていたことだ」と強く感じていました。そして実際に受講してみると、JCCPは、非常に多くのことを与えてくれました。とても感謝しています。

私はこのプログラムを通して、概要から始まり、ビジネス戦略、将来のビジネス、素晴らしい専門家の皆さんによる啓発的な議論に至るまで、非常に短い期間で戦略マネジメントのすべてを学びました。また、日本の歴史や国際関係に関することも教わりました。このコースは私にとって、自己啓発のための特別なコースとなりました。特に心引かれたのは、日々の文献から情報を把握し、自分の国で何が起き、何が反映されているかについて議論することで、自国におけるエネルギー確保のための各国の戦略の根拠や、世界のエネルギー共同体の一員として各国がどのように関わり合っているか、より良く健康的で、より持続可能な経済を目指して協力し、協調するために、各国がどのように開発や模索をしているかを理解しようとしていた点です。それに加えて、世界各国からの参加者との、双方向の友好的な交流と、JCCPのコーディネーターチームのもてなしの気持ちに囲まれて、日本の歴史と美に触れることができました。

私は現在ホールディングに所属していますが、このプログラムは、国策石油天然ガス鉱業会社グループの各サブホールディングや他のポートフォリオ子会社の事業戦略について、より注意を払い、コミュニケーションを図り、サポートするようにと励ましてくれました。そして、私たちが考慮しなければならない多くの接続性を理解していくことで、私自身はある種の「飢餓」状態になりました。常に最新のエネルギー動向をむさぼるように読み、貪欲に特定の知識を身に付け、プルタミナグループに属する全事業体の多くの戦略部門と議論し、会社のビジョンとミッションに対して同じ理解、段階、行動を共有し、より良い戦略を推進しないではいられなくなるほどでした。

まず、この感覚を目覚めさせてくれたJCCPには心から感謝したいと思います。今の私は、ほかのあらゆる環境においても、会社に対して最大限の貢献をするための無限のエネルギーを発揮しています。また、2016年度のコースでできた仲間とのつながりは、互いに敬意を払い合う友情としてこれからも続くことでしょう。そして、全員が会社や国のためにベストを尽くしてくれるものと信じています。

次世代リーダのための石油産業の戦略マネジメントコース（2016年）

イラン国営石油精製販売会社（NIORDC）

イラン

経営企画エキスパート

アリレザ・ハシェミ・バクシ氏

Mr. Alireza Hashemi Bakhshi
Corporate Planning Expert, National Iranian Oil Refining and Distribution Co.(NIORDC) , Iran

ビジネスが成功するために最も重要な要素は、間違いなく持続可能性です。過去40年間、JCCPは石油・ガス産業の幹部向け技術協力を提供することで、諸外国の個人や組織に対する研修・人材開発の分野において格別な役割を果たしてきました。本日、JCCPが設立40周年をお祝いされるにあたり、私から心よりのお慶びを申し上げるとともに、今後一層のご成功と発展、そして輝かしい未来をお祈り申し上げます。

私が日本に滞在していた間、何よりも私の関心を引いたのは日本の皆さんの勤勉さと、仕事や生活のあらゆる側面における高い効率性でした。日本の方々はとても物静かで親切で、何か助けを求めれば全力で助けてくださいました。電車ではほとんどの人が本を読んでいて、寝ている人や音楽を聴いている人もいましたが、その静けさが印象的でした。また、皆さん交通ルールを尊重し、きちんと守っているので、滞在中に不注意な運転やクラクションを鳴らされる経験をすることも一度もありませんでした。信号が青でなければ誰も道路を渡らないのです。そして歩行者信号が青に変わると鳥のさえずりのような音がして、とても心地よく感じました。歩道にも駅にも、視覚障碍者の方のために判りやすい黄色の点字ブロックが設置されていました。エレベーターでは各階の数字が点字で刻まれていて、視覚障碍者への気配りがこれほどまでになされていることに驚きました。

自家用車は多いのですが、交通機関が正確に運行しているためか、都市部、特に東京ではひどい渋滞はありません。日本の交通機関にはバス、地下鉄、鉄道（JR)、路面電車、タクシー、モノレールなどがあります。このシステムの重要な特徴は、都市のそれぞれの地域に適切な開発がなされていることで、3～5分歩けばバスか地下鉄の駅に着くことができます。そして素晴らしいことに、交通機関が規則的で正確であるために、都市部でも大気汚染や騒音・視覚公害などとは無縁なのです。最後に、JCCPの皆様にはTR-14-08プログラムにあたっての綿密な計画とご歓待に改めて感謝申し上げます。システムが実践されているところをご覧になりたいとお考えの方には、ぜひ日本を訪問されることをお勧めいたします。定時性、尊敬、チームワーク、他者への親切と配慮を特徴としたシステムがそこにはあります。私も近い将来、今度は家族を連れて日本を訪れ、春の桜の花を見に行きたいと願っております。

物流コース（2008年）

クウェート国営石油精製会社（KNPC）
クウェート
研究技術グループA チームリーダー

シャイマ・A・アミーン氏

Ms. Shaima A. Ameen
Team Leader Research & Technology Gr. A
Kuwait National Petroleum Company (KNPC), Kuwait

私とJCCPとの関わりは、私がキャリアをスタートさせたばかりの2004年8月、JCCPによる3週間の研修コース「石油製油所における環境汚染管理への挑戦」に参加したことから始まりました。その後のキャリア形成の過程で、KNPCで責任を担うようになるにしたがい、JCCPとの個人レベルや業務レベルでの協力関係が私個人の目標の達成のために重要な役割を果たしてきました。

近年では、KNPCの研究技術部門における私の職務の中で、JCCPの職員のみなさんと緊密に協働できる活動に参加することができ、石油精製事業を支える研究活動を実現することができました。

JCCPとの協力関係には、特別な3本の柱があります。第一に、JCCPの専門家の技術力と経験が石油・ガスセクターを包括する広範な専門性のネットワークを提供していること。第二に、指導者育成がJCCPでの経験の中心にあり、運営会社との強いつながりを築くことで世界的にインパクトを与えてきたということ。そして最後に、JCCPとの交流においては常に日本文化の独自性がそこに織り込まれていて、心から楽しい体験となっていることです。

このたびJCCPが設立40周年を迎えることは素晴らしい偉業です。JCCPファミリーのすべての皆様に、すでに引退された方も含めて、心からのお祝いを申し上げます。

2022年という年はまた、JCCPとの協力関係においても重要な節目の年です。日本 － クウェート合同シンポジウムは今年で第20回目を迎えましたが、今後も日本での研究、クウェートとの共同研究、そしてKNPCの運営経験とを橋渡しする存在であり続けるでしょう。

私は、今後もJCCPとの緊密な協力関係を維持していくことを心から望むとともに、世界中の若手専門家がJCCPの提供するすばらしい能力開発の機会を活用できるよう、大いに奨励していきたいと考えています。

環境管理コース（2004）・クウェート同窓会（2015年）スピーチ・第39回国際シンポジウム（2021）講演者

クウェート科学研究所（KISR）

クウェート

石油研究センター（PRC）常務理事代行

ダウード・バーザド博士

Dr. Dawoud Babzad
Acting Executive Director
Petroleum Research Center
Kuwait Institute for Scientific Research (KISR), Kuwait

一般財団法人JCCP国際石油・ガス協力機関設立40周年に寄せて

クウェート科学研究所（KISR）と石油エネルギー技術センター（PRC）を代表いたしまして、一般財団法人JCCP国際石油・ガス協力機関の設立40周年を心よりお祝い申し上げます。

1993年以来、JCCPはKISRとの協力を通じて、クウェートにおける科学および技術移転と発展に多大なる貢献をされてきました。クウェートの石油セクターを支援するために、私たちはともに数々の大きな課題に取り組んできました。そのおかげで、KISRとJCCPの間の強い絆という重要な成果を得ることができました。

両団体の関係は年月を経て非常に強固なものとなりました。15を超える研究プロジェクトを通じて目覚ましい研究成果を上げ、また1997年の「石油精製産業の発展」シンポジウム以降、20回に及ぶセミナー／シンポジウムを成功裏に開催してまいりました。これらのシンポジウムを通じて、KISRとJCCPが様々な石油セクターの専門家を一堂に集め、国際石油市場の最新情勢について議論し、技術的な情報交換を行うことが可能となりました。

加えて、近年では、JCCPとKISRの技術協力は大学（九州大学）や日本の石油精製企業にまでその範囲を広げております。共同研究プロジェクトに加えて、共同学習プログラムのもとで、複数回に渡る研究者の交流やKISRスタッフの研修プログラムなどがJCCPによって実施されました。

私は、今後もJCCPが石油精製の分野で研究促進の最前線に立ち続けるであろうと確信しております。日本とクウェートの石油セクターの発展のために、これからも私たちの関係がより一層強固なものとなっていくことを期待しております。

結びとして、改めて心よりお祝いを申し上げるとともに、JCCPの今後ますますのご発展をお祈り申し上げます。

クウェート科学研究所（KISR）

クウェート

上級科学研究員　石油研究センター（PRC）業務理事代行

アブドゥラジム・M・J・マラフィ教授

Prof. Abdulazim M.J. Marafi
Senior Research Scientist
Acting Operation Director –Petroleum Research Center
Petroleum Research Center (PRC)
Kuwait Institute for Scientific Research (KISR), Kuwait

JCCPの皆様へのお祝いの言葉

日本には、クウェートおよびペルシャ湾岸地域の科学技術開発に貢献してきたという確かな歴史があります。この場をお借りして、JCCPの創立40周年に当たり、お祝いを申し上げたいと思います。クウェートの石油部門を支援するという大きな挑戦に共同で取り組んだ結果、KISRとJCCPとの間には強固な協力関係が築かれ、目覚ましい成果をもたらしました。

日本の研究機関とKISRの協力関係は、1993年にまで遡ります。クウェート科学研究所（KISR）とJCCP（当時は石油産業活性化センター（PEC））の協力関係はこの年に始まり、過去何年もの間、継続的に強化されてきました。両者はこれまで14以上の研究プロジェクトに取り組み、技術ワークショップやシンポジウムを開催するなど、実りある協力を実現しています。現在では、JCCPとKISRの技術協力は、日本の精製会社だけでなく、九州大学をはじめとする大学にまで拡大されており、大変ユニークな存在であると言えます。

当初の日本側の代表は、石油研究を専門とする政府出資の研究機関であるPEC（当時）でした。そして2001年の日本政府の改組により、国際協力の担当は国際石油・ガス協力機関（JCCP）に引き継がれました。

KISRとPECの最初の研究プロジェクトは、オイルレイク（油溜まり）の土壌浄化に関する研究で、土壌を浄化するためのバイオテクノロジー技術と化学技術の両方の開発が含まれていました。

1997年にKISRとPECは、「クウェート原料油を使用した水素化処理触媒の不活性化に関する研究」と題する6年間の研究プログラムに着手しました。これは、クウェートの製油所にとって特に重要な2つのプロセス、すなわち常圧残渣脱硫（ARDS）プロセスと水素化分解プロセスとに重点を置いたものです。このプロジェクトは、クウェート国営石油精製会社（KNPC）と連携しながら実施され、プロジェクトの成果が各製油所に直接還元されるように配慮されています。また1999年には、硫黄分の高いクウェート原油の品質を向上させるために硫黄分を除去するバイオ脱硫技術の開発に関する別の研究に着手しました。

2001年4月、経済産業省（METI）によって硫黄含有量の高いクウェート原油の品質を改善するためのバイオ脱硫技術の開発は、PEC（現JPEC）からJCCPに移管されました。これは、産油国との

技術協力や人的交流を通じて緊密な関係を維持し、相互理解を促進することを目的とするものです。JCCPの主な事業として、石油産業の下流部門に携わる参加者の、日本でのJCCPプログラムへの受け入れ、日本人専門家の海外派遣、国際会議やセミナーの開催などが挙げられます。

共同研究プログラムでは、以下のような共同研究プロジェクトを実施しました。

1. クウェート原油の直接アップグレーディングプロセス研究（2001年10月、PF020C）
2. クウェート重質油からの低硫黄燃料油製造のための残油の水素化処理（2003年7月、PF025C）
3. クウェート原油の直接アップグレーディングプロセス研究（フェーズII）規模拡大評価（2005年4月、PF030C）
4. 蒸留残油の水素化分解に関する試験プラント研究（2006年1月、PF034C）
5. 軽油水素化処理触媒の工業的性能と試験性能の相関関係に関する開発（2006年9月、PF035C）
6. クウェート原油の腐食性に関する研究（フェーズI）重質油（2006年6月、PF036C）
7. クウェート重質油のアップグレーディングにおける熱分解の実行可能性（2009年11月、PF049C）
8. クウェート重質油の特定のカットの組成分析およびその水素化処理への影響（2011年4月、PF055C）
9. クウェート重質油の効果的な水素化処理方法に関する共同事業（2015年4月、PF068C）
10. クウェート重質油へのスラリーリアクターの適用（2016年4月、PF076C）

共同研究プロジェクトの他にも、過去20年間に数回の研究者間の交流やKISR職員に対する研修が行われました。これは、日本の経験豊富な上級研究者がKISRのPRCスタッフと緊密に連携し、研究所とクウェートの精製石油産業に利益をもたらす素晴らしい機会となりました。

両機関の関係は非常に深まり、1993年以来20回以上にわたってセミナーやシンポジウムを開催し、成功を収めてきました。これらのシンポジウムを通じてKISRとJCCPは、石油部門のさまざまな専門家を招き、国際石油市場の最新の進展について議論し、技術情報を交換する機会を提供しました。

さらに、この40年間、JCCP、KNPC、KISRの間でさまざまな面での協力関係を築いてきたことで、日本とクウェートの管理職や研究者の間で、科学技術に関する知識の伝達や透明性のある関係構築を実現できました。それは社会的な関係に及び、私たちの間に友情が生まれました。JCCPの卒業生として、印象的な思い出や行事が今でも心に残っています。

最後に、日本とクウェートの石油精製に関する研究開発という二国間協力を実現し、両国に利益をもたらすために尽力されているJCCPの経営陣と日本政府に対し、改めて心からの感謝を述べたいと思います。

第19回日本クウェート合同シンポジウムの基調講演者（2020年2月）

TAKATUF
オマーン
スカラシップ・マネジメント理事（元OQ教育人材開発部長）

アリ・アルーマフルーキ氏

Mr. Ali Al Mahrouqi
Director of Scholarship Management, TAKATUF
(Formar : Manager, Manager Learning and Development OQ), Oman

JCCPファミリーの皆様へ

JCCPの設立40周年をお祝いできることは私にとってこの上ない喜びです。この大切な節目を心よりお祝いいたします。JCCPが産油諸国とこれほど長い間にわたって友好的な絆と強固な関係を保ってこられたことは、大いに誇れる業績だと思います。

まず初めに、JCCPの経営陣の皆様に対して、その継続的な支援とご配慮に心からの感謝を申し上げます。中井CEOは、相互の協力関係の中で、賢明なリーダーシップと国際関係のスキルを鮮やかに示してこられました。また、JCCPの職員の皆様の素晴らしい調整力のおかげで、私たちの絆がより強固なものになったことにも感謝を申し上げたいと思います。

JCCPの多様で興味深い研修プログラムは、先端技術分野における従業員の能力開発、石油・ガス産業における技術力開発に貢献しています。これらのプログラムを通して、私はみなさんと近しく仕事をする機会を得ることができました。

結果として、計り知れないほどの仕事上の学びと理論上・実務上の知識を得ることができました。石油、ガス、エネルギーのセクターにおける国際協力を進める上で、JCCPが先頭に立って重要な成果を上げてきたことは間違いありません。

個人的なレベルでの成果について述べますと、JCCPのサポートにより何度も日本を訪問したことで、日本の文化（素晴らしい文化です！）をよりよく理解することができたということは忘れてはなりません。生活のあらゆる部分に深く密に浸透している日本の文化に加えて、ほぼすべての分野にわたる技術の先進性には計り知れないものがあります。

また、様々なリーダーシップミーティングや会議に参加したり、日本の先進的な大企業を訪問したりすることができたことも、JCCPの支援のおかげです。このような取り組みが、今後他の産業においてもオマーンと日本との関係を発展させていくことは間違いないでしょう。

改めてこのような偉業が達成されたことを祝福させていただきます。JCCPの今後ますますの発展と、オマーンとの間でさらなる協力関係が築かれることをお祈りいたします。

第37,38回国際シンポジウム（2019,2020年）講演者・次世代リーダのための石油産業の戦略マネジメントコース（2016年）
・プログラムフォーミュレーションコース（2014年）

サウジアラビア
（元：サウジアラムコリヤド製油所所長）

アブドゥルラーマン・A・アルファデル氏

Mr. Abdulrahman A. AlFadhel
Manager Riyadh Refinery, Saudi Aramco（2022年4月引退）

JCCP 40周年：サウジ製油セクターとJCCPの素晴らしい関係

日本政府は、日本と産油国の関係を強化するための非営利組織としてJCCPを設立しました。

サウジアラビアは最大の産油国であり、かつ日本への第一位の輸出国であるため、JCCPは同国を重要な対象国と考えました。

サウジアラビアはJCCPの設立を歓迎し、それ以来支援を続けて参りました。

1982年、JCCPが行った第1回目の研修「石油精製コース」の参加者の20%はサウジアラビア人でした。それ以来、サウジアラビアのエンジニアたちは毎回プログラムに参加し、成果を上げてきました。これまで約500名のサウジアラビアのエンジニアがJCCPプログラムのお世話になっています。

またサウジアラビアは、JCCPの年次シンポジウムにおいて高位のリーダーたちが出席するなど、影響力ある参加者となっています。

私は、JCCPが「日・サウジ・ビジョン2030」の実現にも大いに貢献することを確信しております。

サウジアラムコ リヤド製油所との関係：

リヤド製油所と日本との関係は、同製油所が日本の優れたエンジニアリング会社（千代田化工建設）によって建設されたその日から始まっています。製油所の制御システム（DC）も別の日本企業（横河電機）によって設置されました。また、近年は画期的な水素化分解触媒技術が、サウジアラムコと日揮触媒化成の共同研究で開発されています。

リヤド製油所のエンジニアはJCCPのすべての研修プログラムに全日程参加しており、JCCPとの確固たる関係が築かれました。

また、リヤド製油所とJCCPが共同で開催したリヤドでの試験検査（T&I）会議は、千代田化工建設や出光興産といった実績のある有名日本企業とJCCPの連携により、豊富な経験やベストプラクティスを共有する機会となりました。

私は2018年にサウジアラムコの製油所事務部門のチームリーダーに任命され、サウジアラムコの製油所とJCCPの間で長期に渡る協力関係を合意しました。その結果、エネルギー、環境、メンテナンス、オペレーションといった製油事業の様々な側面において豊かな経験やベストプラクティスを最大限に共有することが可能になったことを誇りに思っています。

この契約により、日本とサウジアラビアにおいて、両国の中小企業がベストプラクティスを共有する

ことができるような会議の共同開催が可能となりました。

私個人のJCCPでの体験について:

私とJCCPの関わりは25年前、初めて「オペレーション部門監督者の役割」という研修コースに参加した時から始っています。その後も以下のコースに参加してきました。

1. 1999年のオペレーション責任者の役割
2. 2000年の人事管理コース
3. 2007年のメンテナンスマネジメントコース
4. 2013年の人材管理コース

また、以下のJCCPのイベントではスピーカーとして登壇いたしました。

1. 2011年アルコバール（サウジアラビア）で開催されたJCCP同窓会
2. 2018年の第36回JCCP国際シンポジウム

これらの研修コースやイベントはすべて、私が自らの技術や指導スキルを磨くにあたって重要な役割を果たしました。

また、JCCPのプログラムは研修だけに限らず、全プログラムの参加者が日本の文化に触れることをも重要な目的としているということにも触れておきたいと思います。

そのおかげで、私は日本の文化の様々な面について学び、実践することを大いに楽しんできました。

例えば：

- 様々な日本食を試しました（寿司、天ぷら、和牛ステーキ、海産物、緑茶など）。
- 多くの日本の都市を訪問しました（東京、京都、広島、横浜、北海道、大阪など）。
- 多くの興味深い場所を訪問しました（寺、神社、皇居、城、美術館、山など…）。
- 様々な交通機関に乗りました（新幹線、地下鉄、バス、船など…）。
- 日本の衣装（着物）を着て、日本の芸能を練習しました。

このような活動の結果、私は多くの日本人の友人を得ることができ、彼らをリヤドの私の家や故郷であるシャグラ（リヤドの190キロ北西にある都市）に招いて、サウジの伝統的な食事を食べたり、サウジの衣装を着てサウジの芸能を体験してもらったりすることができました。

偉大な国である日本の人々と緊密な関係を築くことは私の喜びです。

最後に、JCCPはその目標をはるかに超えて成功していると私は確信をもって申し上げます。

人材管理コース（2000年,2013年）・メンテナンスマネジメントコース（2007年）・オペレーション責任者の役割（1996年）・サウジアラビア同窓会（2014年）スピーチ・第36回国際シンポジウム（2018年）講演者・プログラムフォーミュレーションコース（2017年）

サウジアラムコR&Dセンター
サウジアラビア
カーボンマネジメント部門 チーフテクノロジスト

アキール・ジャマル博士

Dr. Aqil Jamal
Chief Technologist
Carbon Management Division
Research and Development Center, Saudi Aramco, SaudiArabia

サウジアラムコとJCCPの実り多い協力関係について

JCCPの設立40周年を心よりお祝い申し上げます。サウジアラムコとJCCPは長年にわたり協力関係にあり、先端技術の基礎開発や水素に関する応用研究、新たな改質触媒の開発、二酸化炭素の回収と有効利用などを進めることで、お互いにとって素晴らしい成功を手にしてきました。JCCPは日本とサウジアラビアの研究者たちを集め、炭化水素を持続可能なものにする革新的な上流・下流のソリューションを促進しています。エネルギー化学産業をリードする企業として、サウジアラムコは、このJCCPの果たした役割を高く評価しています。

サウジアラムコR&Dセンターのカーボンマネジメント研究部門は、JCCPのチームとほぼ20年間にわたって、緊密な協力・連携関係にあることを誇りにしています。日本とサウジアラビア双方における水素および二酸化炭素回収・有効利用・貯留（CCUS）の分野で、私たちは共同研究プロジェクトや共同の実行可能性研究、研究者の交流、会議やシンポジウムの共催などを行ってきました。私個人もJCCPの主催したそのような場において、何度もスピーカーやパネリストとして参加させていただく栄誉にあずかりました。直近では、2022年1月27日に開催された第40回JCCP国際シンポジウムにご招待いただき、スピーカーおよびパネリストを務めるという大変な光栄に浴しました。また、2021年度末に完了した京都大学と岐阜大学によるアンモニア活用のための触媒膜反応器や、現在進行中の千代田化工建設およびENEOSとの共同開発によるMCHを使用したSPERA水素システムの実行可能性研究を共に手掛けてこられたことはたいへん誇りに思っております。

JCCPと私たちの、この実り豊かな関係が今後も継続することを期待しています。JCCPがその誕生からこれまで行ってきたのと同様に、将来においても課題に取り組み、来るべきネットゼロの世界でも気候変動の問題を解決するための私たちの協力をさらに深めることができると確信しております。

第40回国際シンポジウム(2022)講演者

第40回国際シンポジウム（2022）講演者・日本-クウェート合同シンポジウム（2019年）・
JCCPアラムコ共催シンポジウム（2017年）

アブダビ国営石油会社（ADNOC）
アラブ首長国連邦
戦略的関係マネジメント（TEO）マネージャー国内関連担当

モハメド・アル・オベイドゥリ氏

Mr. Mohamed Al Obeidli
Manager, Domestic Relations
Strategic Relations Management (TEO), ADNOC, UAE

JCCP国際石油・ガス協力機関の創立40周年を心よりお祝い申し上げます。

このすばらしい節目にあたり、国際的に高く評価されるJCCPの知的交流への貢献、そして長年に渡り、私とADNOCの従業員たちが享受してきた素晴らしい研修プログラムを称えたいと思います。

「石油産業の戦略マネジメント」プログラムからは、常に励ましと導きを受け取っています。私自身はよくこのプログラムを唯一無二のものだと話しています。ケーススタディや、成功した業界のリーダーたちとの重要なミーティング、巨大な工場や日本の技術の中枢への視察などを戦略的に組み合わせて構成されています。これによって私たちは日本の経営モデルについて貴重な知見を得ることができました。また、三菱重工、トヨタ自動車、INPEXといった日本のトップ企業のCEOや経営陣と直接会う機会も得られました。この時の経験や、さまざまな日本の一流企業から得られた知識により、ワールドクラスの企業をどのように成功させ運営していくかということについての私の思考プロセスや理解はかたちづくられました。

私が日本を訪れたのは本プログラムが初めてでしたが、JCCPの皆様のホスピタリティのおかげで忘れ難い体験となりました。特に中井専務のお気遣いとサポートには感激いたしました。中井専務はすべての視察、そして訪問場所を移動する間にもご同席くださり、日本の客人に対する気遣いとサポートの見事なお手本を見せてくださいました。

本プログラムには業界のさまざまな分野の専門家や、主要エネルギー産業の経営陣が関わっています。本プログラムを通じての私たちの交流が、将来の協働につながる知識の共有や前向きなネットワーク構築のさらなる流れを作ってくれました。

ADNOCでは、JCCPの友人の皆様の支援を大変価値あるものと考えております。これは2つの企業体だけではなく、日本とアラブ首長国連邦という偉大な国同士の強いパートナーシップの証明であると信じています。

皆さまの今後のさらなる繁栄を心よりお祈り申し上げます。

次世代リーダのための石油産業の戦略マネジメントコース（2015年）

アブダビ国営石油精製会社（ADNOC Refining）
アラブ首長国連邦
上級副社長代理 事業部

ハサン・カラム博士

Dr. Hasan Karam
Acting Senior Vice President, ADNOC Refining, UAE

JCCPの創立40周年にあたり、心からのお慶びを申し上げます。

JCCPは、参加者同士のコラボレーションを促進し、経営、戦略、政策について学ぶ機会を提供する場として大きな力となってきました。日本企業の先端技術に関する知識を共有することは、産油国やガス国の下流産業部門の担当者が、より大きい、長期的な視野に立って新しいビジネス戦略を策定する上で役立ちました。また、日本で実施されるプログラムは、日本への理解を深めることにもつながりました。

「石油産業の戦略マネジメント」コースは、ADNOC Refining（ルワイス製油所）の上級副社長として事業戦略を策定する上で大変役に立っており、心から感謝しています。

JCCPの卒業生の一員となれたことを光栄に思うとともに、JCCPの今後のさらなる発展をご祈念申し上げます。

次世代リーダのための石油産業の戦略マネジメントコース（2018年）・第35回国際シンポジウム（2017年）講演者

ベトナム国営石油会（PETORVIETNAM）

ベトナム
人事部 副部長

レ・ティ・ラム・トラ氏

Ms. Le Thi Lam Tra
Deputy General Manager
HR Division
Vietnam Oil and Gas Group(Petrovietnam – HQ), Vietnam

JCCP創立40周年という大きな節目にあたり、お祝いを申し上げることができて大変に嬉しく思います。

JCCPの研修コースには何度も参加する機会を得られたことは大変光栄です。私が初めてJCCPの研修コースに参加したのは、2001年に日本で開催された「トレーニング・マネジメント（Training Management）コース」でした。このコースは、私がこれまでに参加した中でも特に優れた人材育成プログラムの一つでした。このコースに参加したことで、私は人事のプロフェッショナルとしてのキャリア開発に励むとともに、モチベーションを高めることができました。

JCCPのプログラムは、知識、下流の技術からマネジメントスキルまでさまざまな専門家としての経験、そして日本の働く文化を共有できるという点で、参加者に多くの利益をもたらしてくれました。まず、日本の空港に到着した時から、学習中も視察旅行中も、JCCPのスタッフ、チューター、ファシリテーターの皆さんがとても親切で、その温かな心遣いに感激しました。交通手段、食べ物、日本文化など、参加者が日本のものに慣れるように親切に指導してくれました。

そして、研修コースの内容やスケジュールの設計が優れていました。教室での講義、日本人の専門家からの経験の発表、日本企業を訪ねる視察旅行という組み合わせは、私の仕事にとってとても実用性が高く、価値のあるものです。人事の知識を得るだけでなく、世界の多くの石油会社やガス会社の人事担当者とネットワークを広げることができ、人事業務で直面する経験やケーススタディを共有することができました。このような友人たちと引き合わせてくれたJCCPに感謝しています。

JCCPのプログラムと言えば、日本の文化や生活習慣の紹介と、週末に行われた文化ツアーのことは忘れることができません。日本語のこと、JRの鉄道のこと、日本の公共交通機関のことなど、いろいろと教えていただきました。

皆さんもJCCPのプログラムに参加すれば、きっと私のように知識や、経験や、友情を深めることができるはずです。

最後になりますが、私はJCCPの卒業生になれたことをとても誇りに思っています。JCCPのますますの繁栄と発展をお祈り申し上げます。

トレーニングマネジメントコース（2001年）・プログラムフォーミュレーションコース（2015年）

ベトナム国営石油製品販売会社（PETROLIMEX）
ベトナム
副社長
グエン・ヴァン・ス氏

Mr. Nguyen Van Su
Vice President
Vietnam National Petroleum Group (PETROLIMEX), Vietnam

JCCP国際石油・ガス協力機関の創立40周年を祝って

JCCPが創立40周年を迎えられましたことに心からお祝い申し上げます。

私は2015年10月に日本で行われたJCCPの研修コース「石油産業の戦略マネジメント」に参加する機会をいただきました。すでに7年もの年月が経ったことに驚いていますが、楽しかった一瞬一瞬、心温まる思い出、そして日本、その文化と日本の皆さんの素晴らしい姿は今なお心に鮮明に刻まれています。

研修コースの参加者はいずれも大手石油会社の中間管理職で、文化も異なる世界数カ国からの参加でしたが、JCCPは優れた企画力で研修を実施してくれました。参加者はまるで大学時代に戻ったかのように、若い頃の情熱をもって熱心に学び、実習し、新しい知識を習得しました。私たちは、研修内容の企画から講義科目や知識・情報の伝達方法の選択に至るまでコース全般を通じてJCCP専務理事（CEO）のご洞察とご指導にとりわけ感銘を受けました。

研修コース全体を通じて、私たちはJCCPの最新の施設で行われた講義から学び、意見交換を行うとともに、石油・ガス業界の企業や工場を訪問見学して実地体験を得ることもできました。個人的には石油・ガス部門のエンジニアリング企業である日揮（JGC）の力強い発展に感銘を受けました。実はとても幸運なことに、1997年にも私は弊社ペトロリメックスの同僚とともにJGCで石油化学事業のマネジメントに関する3カ月のコースに参加した経験があったのです。私たちはまた、世界最大の自動車メーカーであるトヨタ自動車の本社工場の技術と規模にも魅了されました。

最後になりましたが、JCCPが幅広いネットワークでメンバー会社を組織し連携しているあり方に大いに感謝したことを申し上げたいと思います。おかげで私たち研修参加者は、それぞれにビジョンを広げ、石油・ガス産業についての理解を深め、充実させることできました。各自の組織の包括的な発展に貢献すべく、たくさんの役立つ知識と経験を得ることができました。

改めてJCCPに感謝申し上げると共に、創立40周年をお祝い申し上げます。

次世代リーダのための石油産業の戦略マネジメントコース（2015年）・第38回国際シンポジウム（2020年）講演者